

令和3年度

観光文化スポーツ部運営プログラム

評価票

令和4年8月
観光文化スポーツ部

令和3年度 観光文化スポーツ部施策体系

I 第4次山形県総合発展計画の推進

【 】：第4次山形県総合発展計画実施計画の施策番号

1 次代を担い地域を支える人材の育成・確保【1】

- (1) 生涯を通じた多様な学びの機会の充実【1-2】
 - ① 県民や地域に活力をもたらす多様な学びの促進

2 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化【3】

- (2) 国内外からの観光・交流の拡大による地域経済の活性化【3-3】
 - ② 観光地域づくりの推進
 - ③ 戦略的な誘客促進
 - ④ 地域の特性や魅力を活かした多様な交流の促進

3 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用【5】

- (3) 国内外の活力を呼び込む多様で重層的な交通ネットワークの形成【5-2】
 - ⑤ 国際ネットワークの形成促進
 - ⑥ 国内広域交通ネットワークの充実強化
- (4) 地域の豊かな自然と地球の環境を守る持続可能な地域づくり【5-3】
 - ⑦ 自然環境や文化資産の保全・活用・継承
- (5) 地域の特性を活かし暮らしを支える活力ある圏域の形成【5-4】
 - ⑧ 県を越えた交流連携の推進

令和3年度 観光文化スポーツ部 主要事業実施状況

I 第4次山形県総合発展計画の推進

1 次代を担い地域を支える人材の育成・確保【1】

(1) 生涯を通じた多様な学びの機会の充実【1-2】



取組みの成果

① 県民や地域に活力をもたらす多様な学びの促進

K P I	県立文化施設等の来館者数					
	基準値（平成29年度）： 870,200人					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—※	100万人	100万人	100万人
	実績値	58.3万人	926,826人			
進捗状況	その他（新型コロナの影響で指標値を設定せず）					

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る公演・企画展等の延期や入館者制限等により、令和3年度の動向について見通すことが困難であったため。

【令和3年度における評価と見直しの方向性】

<文化芸術・スポーツ等に触れる機会の充実>

（評価）

- 山形県生涯学習文化財団との連携による美術館・博物館が実施する企画展への支援の実施、及び県民に優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供する文化施設・団体への支援、SNSでの情報発信等により、感染対策を十分に取りながら、県民に魅力ある企画展や優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供した。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、県立文化施設をはじめ、県内の美術館・博物館などの文化施設・団体は、来館者数の減少により大きな影響を受けていることから、国の臨時交付金などを活用し、文化芸術に関わるコロナ対策事業として、山形県民を対象に対象施設の入館料等を割引く「やまがた文化応援キャンペーン」事業を実施し、文化施設の利用回復を図った。
- 伝統文化の体験教室や県内各地に伝わる民俗芸能の披露を行う「やまがた伝統文化フェスタ」を開催し、親子をはじめ県民に山形の伝統文化を体験してもらう機会を提供した。
- 県立博物館は新型コロナウイルス感染防止の対策を講じながら、開館50周年記念特別展として開催した「1971-やまはく誕生物語-」では、開館の年である1971年の出来事に関する資料の展示や博物館の設計等、50年の歴史を広く紹介した。また、プライム企画展「紅と藍-くらしを彩る-」では、山形の伝統的染色文化の紹介や子どもから高齢者まで楽しめるイベントを通して、山形の宝を後世に伝え、郷土に対する愛着や誇りの醸成を図った。
また、高校生を対象とする「学芸員一日体験講座」の開催や、職員が小学校に出向く「出張博物館」など学校教育と連携した取組みを実施した。
- 新型コロナウイルス感染症の影響によりホームゲームの中止や延期が発生し、薄れた県民のプロスポーツへの興味や関心及びプロスポーツ団体の入場料収入の減収から回復を図るため、国の臨時交付金を活用し、「やまがたプロスポーツ応援キャンペーン第2弾」事業を

施した。 (見直しの方向性) ・ 美術館・博物館・文化施設・文化芸術団体への支援を通じて、引き続き県民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供していく。 ・ 文化芸術団体等と連携し、親子で気軽に伝統文化を体験してもらう機会を創出する。 ・ 引き続き感染防止対策を講じながら、生涯学習の拠点として時機を捉えたテーマの設定や来館者ニーズを踏まえた魅力ある企画・展示を行っていく。 ・ プロスポーツ団体への支援を通じて、引き続き県民にプロスポーツに親しむ機会を提供していく。

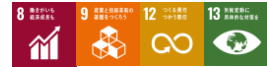
【令和3年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
やまがた文化応援事業費 (6月補正)	35,083 (59,000)	・県民の県内での消費活動を喚起し、地域経済の回復につなげるため、文化施設等の入館料等を500円につき100円割引くキャンペーン事業を実施 (35施設・団体が参加)	4
プロスポーツ支援事業費 (6月補正)	15,799 (16,200)	・500円につき100円の割引クーポン発行による「やまがたプロスポーツ応援キャンペーン第2弾」によりプロスポーツ3団体を支援	4
山形県文化芸術交流発信事業費	16,435 (16,435)	・県と文化団体との共催による地域のホール等を活用した文化芸術鑑賞機会の提供 (文化芸術鑑賞機会13事業を実施)	4
文化による地域への愛着・誇り醸成事業費	3,901 (3,931)	・親子で気軽に伝統文化体験や民俗芸能の鑑賞をしてもらう「山形伝統文化フェスタ」を開催 ・子ども達が放課後等を活用し文化芸術体験を行う「総合型文化クラブモデル事業」を実施 (モデル市1市で実施)	4
文化団体等連携支援事業費	100,523 (102,030)	・美術館等が実施する企画展や山形交響楽団の活動への支援 (美術館等の企画展等32事業への支援、山響の主催公演21事業等への支援を実施)	4
博物館活動整備事業費	5,847 (6,214)	・プライム企画展の開催「紅と藍 - 暮らしを彩る -」R3年9月25日～12月12日開催	4
計	177,588 (203,810)		

2 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化【3】

(2) 国内外からの観光・交流の拡大による地域経済の活性化【3-3】



目標指標	観光消費額
	基準値（平成30年度）： 2,177億円 直近値（令和2年度）： 1,349億円（前年値2,235億円 前年比▲886億円） 目標値（令和6年度）： 2,600億円
	進捗状況 策定時を下回る

取組みの成果

② 観光地域づくりの推進

K P I	観光者数					
		基準値（平成30年度）： 46,507千人				
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—※	48,800千人	49,400千人	50,000千人
	実績値	27,511千人 (直近値)	—			
	進捗状況	その他（新型コロナの影響で指標値を設定せず）				
	平均宿泊数					
		基準値（平成30年）： 1.32泊（全国平均： 1.33泊）				
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—※	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
実績値	1.32泊 (全国1.33泊)	1.42泊 (全国1.33泊)				
進捗状況	その他（新型コロナの影響で指標値を設定せず）					

※ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う観光イベントの中止や県域を越える移動の自粛・制限など、令和3年度の動向について見通すことが困難であったため。

【令和3年度における評価と見直しの方向性】

<質の高いツーリズムの推進>

(評価)

- ・ 探究型学習やSDGs（持続可能な開発目標）に対応した教育旅行メニューを掲載したパンフレットを活用し、これまで本県での教育旅行の実績があまりなかった地域（栃木県、群馬県、茨城県等）の旅行会社に対するセールス活動等を実施した。
- ・ 「やまがた出羽百観音」の認知度を向上させ、来訪意欲を喚起させるプロモーション動画の作成や、美食・美酒に関するガイドブックを制作するなど、山形ならではの魅力的な観光資源を活用したツーリズムの発信を行った。
- ・ 東北デスティネーションキャンペーン（以下「東北DC」という。）における「山形ならで

は」の魅力を伝えるガイドブックやWEB・SNSによる広告配信のほか、東北中央自動車道を活用したスマホスタンプラリーの実施などにより、観光誘客を行った。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により危機的状況にある県内観光産業回復のために、県内の宿泊・日帰り旅行に対する割引を行う「県民泊まって元気キャンペーン」を実施するとともに、県内の宿泊・日帰り旅行に対する割引及び県内の観光立寄施設等で利用できるクーポンの配布を行う「県民泊まってお出かけキャンペーン」を実施した。
- ・ ポストコロナを見据え、宿泊施設を対象に新たな需要となり得るマイクロツーリズム、ワーケーション、ユニバーサルツーリズム等のコンテンツ開発や施設改修及び新型コロナウイルス感染症の感染防止対策にかかる経費の支援を実施した。

(見直しの方向性)

- ・ コロナ禍において学校が近県や感染拡大が比較的落ち着いている地域へ旅行先を変更している現状を踏まえ、これまで本県での教育旅行の実績があまりなかった地域も含め、引き続き旅行会社及び教育機関へのセールス活動や招請事業を実施する。
- ・ 引き続き、観光誘客に資する地域資源を活用し、「やまがた出羽百観音」等の精神文化の更なる認知度向上や来訪意欲の向上に向けた情報発信を強化する。
- ・ 東北 DC において磨き上げた観光素材を活かして、南東北重点販売等において引き続き観光誘客を行う。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、県内宿泊施設への入込みは落ち込みが続いている。引き続き、政府の動向等に注視しながら、宿泊割引事業等を行うことで観光需要の回復を図っていく。
- ・ 宿泊施設から新たな取り組みを行うための自己資本の確保が困難という声があったことから、コンテンツ開発や施設改修等への経費支援に係る助成率の見直しを行う。

<四季のリゾート“世界の蔵王”としての確立>

(評価)

- ・ 蔵王温泉、蔵王坊平、蔵王猿倉地域全体の総合的な情報発信基盤として、蔵王総合情報サイト「feel the ZA0」を構築した。
- ・ 高齢者や障がい者も楽しめるバリアフリーな観光の促進に向けてモニターツアーを実施した。

(見直しの方向性)

- ・ 四季を捉えた滞在コンテンツや特集記事の充実など、蔵王総合情報サイトの内容を拡充することにより情報発信を強化する。
- ・ 総合情報発信サイトにて得られた情報接触者や消費者情報の分析データを蔵王地域へフィードバックすることにより、マーケティングによる事業展開を促進する。
- ・ SDGs を念頭に、蔵王地域を誰もが楽しめる観光地としていくため、モニターツアーによるモデルコース検討や受入態勢づくりを促進する。

<観光地域としての受入環境の整備>

(評価)

- ・ 新型コロナ感染対策に関し、県観光情報ポータルサイト「やまがたへの旅」において、ゴールデンウィーク期間における「新しい旅のエチケット」を掲載した。加えて、災害時に役立つ外部サイト等の情報をリンク集に掲載した。
- ・ 東北 DC 開催にあたり、観光周遊バス運行・パス発行、レンタカー支援の二次交通支援や、県内各地域で実施するお客さまのお出迎え（パンフレットやノベルティの配付等）支援等を実施し、受入態勢を整備した。
- ・ 子ども、高齢者、障がい者及び外国人等、誰もが安心して活動できる出かけやすい県づくりを進めるため、不特定多数の人が利用する観光施設トイレのバリアフリー化工事の支援事業を行ったが、利用実績はなかった。

(見直しの方向性)

- ・ 引き続き観光地までの二次交通整備やおもてなしへの支援を実施し、受入環境の向上を図る。
- ・ 国で類似事業を実施していること、また、これまでの取組みの成果により観光施設トイレのバリアフリー化が進んでおり、一定の成果を得られたことから、令和3年度で当支援事業は廃止した。

<広域的な交通ネットワークの利便性向上と広域観光周遊ルートの形成>

(評価)

- ・ 外国人専用鉄道パスを活用した首都圏(羽田・成田空港)から本県への旅行商品造成のため、官民一体でメディア招請や情報発信を行ってきたが、渡航制限により旅行商品が造成されていない状況にある。

(見直しの方向性)

- ・ 海外からの往来再開後を見据え、引き続き、官民一体で安全・安心な旅と新しい山形の過ごし方を提案し、外国人専用鉄道パスを活用した首都圏(羽田・成田空港)から本県への直接的な誘客を図る。

<観光地域づくりの担い手の育成>

(評価)

- ・ ワークーション等に対応した旅行商品開発に係る支援をすることで、地域DMO等を中心に地域の関係者を巻き込んだ観光地域づくりを行う事業を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、支援対象者において事業が実施できなかった。

- ・ 「山形おもてなしドライバー検定」(受講者29名)及び「山形観光アカデミー」による研修(3講座、計136名)を実施し、観光関係事業者のおもてなし力向上を図った。

(見直しの方向性)

- ・ 観光地を支える人材の育成を行うことで観光地づくりを行う新たな事業を実施する。
- ・ 「山形おもてなしドライバー検定」の実施や、オンラインも活用しながら、危機管理に関する講座を含めた「山形観光アカデミー」による研修を実施し、おもてなし力の向上に向けた観光人材の育成を図る。

【令和3年度関連事務事業】

(単位:千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
観光誘客緊急対策事業費(県民泊まって元気キャンペーン)	25,014 (25,014)	・ 県民が県内宿泊施設で利用可能なクーポンを発行する「県民泊まって元気キャンペーン」を実施。約3千人泊分の利用があった。	8
観光誘客緊急対策事業費(県民泊まってお出かけキャンペーン)(4・6月補正)	3,415,029 (3,415,029)	・ 県民を対象として、県内の宿泊・日帰り旅行代金の割引や土産物屋、立寄施設、交通機関等で利用できるクーポンを発行する「県民泊まってお出かけキャンペーン」を実施。約42万5千人泊分の利用があった。	8

観光誘客緊急対策事業費（宿泊施設受入体制強化緊急支援事業費補助金）（6月補正）	432,358 (453,489)	・山形県宿泊施設受入体制強化緊急支援事業費補助金を実施。267件の申請があった。 （村山:129件、最上:27件、置賜:49件、庄内:62件）	8
新米を活用した観光需要喚起キャンペーン事業費（9月補正）	34,622 (39,000)	・10万人を対象に、ワクチン接種済又は陰性証明等の提示が可能な方が県内宿泊施設に宿泊した場合、先着で新米を贈呈	8
観光立寄施設緊急支援事業費（9月補正）	67,051 (117,000)	・県内立寄施設のポストコロナに向けた感染防止対策、観光コンテンツ造成等の取組みに127件支援	8
やまがた的グリーン・ツーリズム推進事業費	9,637 (9,880)	・「やまがた的グリーン・ツーリズム」HPやグリーン・ツーリズムNEWS（年2回、計32,000部発行）により、旬のグリーン・ツーリズム情報を首都圏や近県に向けて発信	8
観光連携推進事業費	84,527 (86,559)	・（公社）山形県観光物産協会が実施する本県の観光振興を図るための事業に対して助成	8
観光キャンペーン推進事業費	29,160 (29,160)	・官民一体となった誘客拡大を推進する「やまがた観光キャンペーン推進協議会」の負担金	8
教育旅行推進事業費	14,641 (18,487)	・貸切バスへの助成、受入態勢の整備等による誘致活動の実施等	8
雪を活用した観光誘客支援事業費	17,488 (19,625)	・観光客が減少する冬期間に広域的な観光誘客に取り組むことで、年間を通じた観光交流の拡大を図るため、県内冬の大型イベントとして官民挙げた取組みを実施（やまがた音と光のファンタジアを開催）	8
地域広域観光推進事業費	12,632 (12,732)	・仙台圏向けの紅花キャンペーンの実施と紅花文化に関する情報の発信、最上地域の隣接圏と連携した「東北のへそ市」オンライン販売、置賜地域における伊達四十八館など地域が主体となった観光素材の発掘・磨き上げ、庄内地域における精神文化等の地域資源の磨き上げとそれらを活用した旅行商品造成への支援などを実施	8
「世界の蔵王」プロジェクト推進事業費	11,080 (11,534)	・「世界の蔵王」プロジェクト事業推進に向けて、蔵王情報総合サイトの構築や、誰もが楽しめるバリアフリーな観光の促進のためのモニターツアー等を実施	8
精神文化デジタルプロモーション事業費	10,738 (10,870)	・本県の強みである「やまがた出羽百観音」等の精神文化のブランド化に向けて、プロモーション動画の作成や、県観光情報ポータルサイト「やまがたへの旅」内の特集ページのリニューアル等を実施	8
東北DC事業費	31,243 (39,400)	・山形の魅力あふれる受入企画に加え、東北DC推進協議会、各広域観光協議会、市町村等と連携し、デジタルマーケティングによる宣伝展	8

		開、周遊企画の実施、本県の強みや魅力の更なる磨き上げ、ICTの活用による二次交通の利便性向上等の取組みを実施	
東北・新潟の情報発信拠点事業費	20,379 (20,552)	・オリンピック期間中に開催される「東北・新潟の情報発信拠点事業『東北ハウス』」において映像や体験を通じた本県の情報発信及びPRを実施	8
広域的・長期滞在型観光推進事業費	5,040 (5,158)	・近隣県及び交通事業者と連携し、欧米を対象としたメディア（1回）及び旅行会社（2回）招請、オンライン広告を実施 ・近隣県及び交通事業者と連携し、台湾・香港・中国を対象としたメディア招請（1回）、オンライン広告を実施	8
バリアフリー観光推進事業費	0 (1,000)	・山形県観光公衆施設整備支援事業費補助金を実施（利用実績はなし）	8
地域DMO育成事業費	0 (1,800)	・新型コロナウイルス感染症の影響により、支援対象者において、事業が実施できなかった。	8
観光誘客総合推進事業費	35,137 (35,663)	・「山形おもてなしドライバー検定」（受講者29名）を実施	8
計	4,255,776 (4,351,952)		

③戦略的な誘客促進

K P I	県観光情報ポータルサイトのアクセス件数					
		基準値（平成30年度）：229万件				
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	240万件	280万件	310万件	330万件	350万件
	実績値	162万件	215万件			
	進捗状況	策定時を下回る				
	外国人旅行者受入数					
		基準値（平成30年度）：252,289人				
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—※	450,000人	520,000人	600,000人
	実績値	125,930人	17,463人 (速報値)			
	進捗状況	その他（新型コロナの影響で指標値を設定せず）				
	延べ外国人旅行者宿泊者数					
		基準値（平成30年）：163,460人泊				
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—※	295,000人泊	345,000人泊	400,000人泊

	実績値	87,440 人泊	15,920 人泊			
	進捗状況	その他（新型コロナの影響で指標値を設定せず）				

※ 新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る入国制限が行われており、令和3年度の動向について見通すことが困難であったため。

【令和3年度における評価と見直しの方向性】

＜観光関連産業の回復・活性化＞

（評価）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により危機的状況にある県内観光産業回復のために、県内の宿泊・日帰り旅行に対する割引を行う「県民泊まって元気キャンペーン」を実施するとともに、県内の宿泊・日帰り旅行に対する割引及び県内の観光立寄施設等で利用できるクーポンの配布を行う「県民泊まってお出かけキャンペーン」を実施した。（再掲）
- ・ ポストコロナを見据え、宿泊施設を対象に新たな需要となり得るマイクロツーリズム、ワーケーション、ユニバーサルツーリズム等のコンテンツ開発や施設改修及び新型コロナウイルス感染症の感染防止対策にかかる経費の支援を実施した。（再掲）

（見直しの方向性）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、県内宿泊施設への入込みは落ち込みが続いている。引き続き、政府の動向等に注視しながら、宿泊割引事業等を行うことで観光需要の回復を図っていく。（再掲）
- ・ 宿泊施設から新たな取り組みを行うための自己資本の確保が困難という声があったことから、コンテンツ開発や施設改修等への経費支援に係る助成率の見直しを行い、引き続き支援する。（再掲）

＜情報発信の強化＞

（評価）

- ・ 県観光情報ポータルサイト「やまがたへの旅」の特集記事、着地型旅行商品紹介ページの作成などサイトの充実を図った。
- ・ 「日本遺産」と「音楽」というジャンルの異なる山形の上質な文化資源を掛け合わせ、日本遺産認定地域の山寺で山形交響楽団によるアンサンブル演奏を行い、動画配信を行った。

（見直しの方向性）

- ・ 県観光情報ポータルサイト「やまがたへの旅」について、知名度・認知度を向上させ、利用を促進する。

＜「観光デジタルマーケティング」の推進＞

（評価）

- ・ 県観光情報ポータルサイト「やまがたへの旅」やSNSのアクセスデータ、観光統計データの分析による消費者嗜好を踏まえたデジタルプロモーションを実施した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により観光需要は大幅に低迷していたが、消費者嗜好を踏まえた記事の充実を図ったことで前年を上回るアクセスを確保した。

（見直しの方向性）

- ・ 県観光情報ポータルサイト「やまがたへの旅」のコンテンツとして、アクセスが多い「モデルコース」を充実させることで、データ収集の強化を図る。
- ・ 持続的な観光デジタルマーケティングの推進を図るため、レポート作成作業の効率化を図る。

＜インバウンドの推進＞

（評価）

- ・ 渡航制限により海外との往来再開に至らず、仙台国際空港や関係機関、隣接県からの情報

<p>収集にとどまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人専用鉄道パスを活用した首都圏（羽田・成田空港）から本県への旅行商品造成のため、官民一体でメディア招請や情報発信を行ってきたが、渡航制限により旅行商品が造成されていない状況にある。（再掲） 外航クルーズ船の運航再開に向けた国の動向を注視しつつ、船会社招請ツアーなど誘致活動を実施した。 <p>（見直しの方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンドの段階的な回復に向け、隣接県と連携し仙台国際空港や関係機関等から情報収集を行い、タイミングを逃さずにF I T（海外個人旅行）層の山形への誘客を図る。 海外からの往来再開後を見据え、引き続き、官民一体で安全・安心な旅と新しい山形の過ごし方を提案し、外国人専用鉄道パスを活用した首都圏（羽田・成田空港）から本県への直接的な誘客を図る。（再掲） 外航クルーズ船の運航再開に向けた国の動向を注視しつつ、隣県と連携し運航決定権のある船会社幹部の招請など誘致活動を継続する。
--

【令和3年度関連事務事業】

（単位：千円）

事業名	決算額 （予算額）	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
観光誘客緊急対策事業費（県民泊まって元気キャンペーン）（再掲）	25,014 (25,014)	・県民が県内宿泊施設で利用可能なクーポンを発行する「県民泊まって元気キャンペーン」を実施。約3千人泊分の利用があった。	8
観光誘客緊急対策事業費（県民泊まってお出かけキャンペーン）（4・6月補正）（再掲）	3,415,029 (3,415,029)	・県民を対象として、県内の宿泊・日帰り旅行代金の割引や土産物屋、立寄施設、交通機関等で利用できるクーポンを発行する「県民泊まってお出かけキャンペーン」を実施。約42万5千人泊分の利用があった。	8
観光誘客緊急対策事業費（宿泊施設受入体制強化緊急支援事業費補助金）（6月補正）（再掲）	432,358 (453,489)	・山形県宿泊施設受入体制強化緊急支援事業費補助金を実施。267件の申請があった。（村山:129件、最上:27件、置賜:49件、庄内:62件）	8
新米を活用した観光需要喚起キャンペーン事業費（9月補正）（再掲）	34,622 (39,000)	・10万人を対象に、ワクチン接種済又は陰性証明等の提示が可能な方が県内宿泊施設に宿泊した場合、先着で新米を贈呈。	8
観光デジタルマーケティング・プロモーション事業費	31,813 (31,874)	・県観光情報ポータルサイト内に特集記事を12本作成（日本語6本、繁体字2本、英語1本、簡体字1本、タイ語1本、韓国語1本） ・県観光情報ポータルサイトやSNSのアクセスデータ等を活用した市町村・観光協会向けセミナーを開催（参加申込者数：27人）	8

観光誘客総合推進事業費（再掲）	35,137 (35,663)	・山形交響楽団が日本遺産のストーリーとして認定された「山寺と紅花」とコラボレーションした動画を YouTube で公開。再生回数は約 26 万回。	8
山形県版ふるさと観光検定事業費（9月補正）	4,972 (4,972)	・WEB 上において、無料で受検可能な「山形ふるさと観光検定」を実施。総受検数は 14,905 回。	8
段階的復活に向けたインバウンド誘客事業費（9月補正）	13,000 (13,000)	・台湾を対象とした、現地旅行会社向けオンライン商談会（台湾 79 社、本県 22 社参加）、現地旅行博への出展、OTA（インターネット上の旅行会社）サイトでの広告 ・中国を対象とした現地旅行博等への出展（3 回）、セミナーの開催（5 回）、OTA サイト等での広告	8
東アジア誘客推進事業費	7,487 (7,487)	・台湾、香港、中国及び韓国における観光情報の発信、山形県観光コーディネーターによる現地情報の収集	8
東南アジア誘客推進事業費	1,229 (1,229)	・近隣県と連携しタイでオンライン東北イベント開催	8
外航クルーズ船誘客事業費	1,146 (1,246)	・官民一体となったプロスパーポートセールス協議会を中心に、船社 2 社の招請など誘致活動を実施	8
広域連携推進事業費	20,436 (20,590)	・東北観光推進機構等と連携した海外誘客事業の実施	8
広域的・長期滞在型観光推進事業費（再掲）	5,040 (5,158)	・近隣県及び交通事業者と連携し、欧米を対象としたメディア（1 回）及び旅行会社（2 回）招請、オンライン広告を実施 ・近隣県及び交通事業者と連携し、台湾・香港・中国を対象としたメディア招請（1 回）、オンライン広告を実施	8
計	4,027,283 (4,053,751)		

④地域の特性や魅力を活かした多様な交流の促進

K P I	県内への文化・スポーツ合宿の新規誘致数					
	基準値（令和元年度）：3 団体					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—※	3 団体	3 団体	3 団体
	実績値	1 団体	0 団体			
進捗状況	その他（新型コロナウイルスの影響で指標値を設定せず）					

※ 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う県域を越えた移動の制限や合宿の自粛などが発生しており、令和 3 年度の動向について見通すことが困難であったため。

【令和3年度における評価と見直しの方向性】

＜文化芸術活動・スポーツを通じた交流の促進＞

（評価）

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初予定されていたスポーツ団体の合宿の中止が相次ぎ、新規団体の誘致実績は0件となった。
- ・ 山形県スポーツコミッション主催のモルック大会を開催し、県内外16チームが参加した。
- ・ 県外で本県の文化を発信するため、山形交響楽団東京公演を支援し、会場で感染対策を行いながら本県の観光地や県産品・文化施設等をPRした。
- ・ 山形県総合文化芸術館における海外や国内の著名アーティストの公演キャンセル等、新型コロナウイルス感染拡大による影響があったが、施設利用ガイドラインを策定し、感染状況に応じて適切な感染防止対策を講じながら館の運営を行った結果、令和3年度の来館者数は386,712人となり、目標（26万人）を達成することができた。

（見直しの方向性）

- ・ 文化・スポーツ合宿の誘致拡大
⇒ 新型コロナウイルス感染症の収束を見据えながら、合宿誘致活動を行う。
- ・ 山形交響楽団の東京公演に対して引き続き支援し、本県の文化・観光の魅力を発信する取り組みを進める。
- ・ 山形県総合文化芸術館の指定管理者による企画事業の来場者アンケート結果等を踏まえ、利用者ニーズを把握し、今後の企画事業を充実させるとともに、県内外からのバスツアーや宿泊パックなど、旅行事業者による商品造成を働きかけていく。

＜海外との相互交流の促進＞

（評価）

- ・ 1年延期となっていた東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、ホストタウン相手国・地域との交流は、感染状況から約半数が中止となったものの、感染対策を講じながらの事前合宿の受入やオンライン交流など、ホストタウン自治体においてコロナ禍での工夫を凝らした交流が実施された。

（見直しの方向性）

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックは終了したが、工夫を凝らした交流事例を紹介しながらスポーツを通じた国際交流が広がるよう支援していく。

【令和3年度関連事務事業】

（単位：千円）

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
プロスポーツ支援事業費（6月補正）（再掲）	15,799 (16,200)	・500円につき100円の割引クーポン発行による「やまがたプロスポーツ応援キャンペーン第2弾」によりプロスポーツ3団体を支援	8
文化団体等連携支援事業費（再掲）	100,523 (102,030)	・美術館等が実施する企画展や山形交響楽団の活動への支援 (美術館等の企画展等32事業への支援、山響の主催公演21事業等への支援を実施)	8
山形県文化芸術交流発信事業費（再掲）	16,435 (16,435)	・県と文化団体との共催による地域のホール等を活用した文化芸術鑑賞機会の提供 (文化芸術鑑賞機会13事業を実施)	8
文化による地域への愛着・誇り醸成事業費（再掲）	3,901 (3,931)	・親子で気軽に伝統文化体験や民俗芸能の鑑賞をしてもらう「山形伝統文化フェスタ」を開催 ・子ども達が放課後等を活用し文化芸術体験を行う「総合型文化クラブモデル事業」を実施	8

		(モデル市1市で実施)	
文化財保護事業費	48,598 (51,561)	・国指定文化財の保存修理(国宝羽黒山五重塔防災施設整備事業など19件)等への支援の実施	8
文化財保存活用大綱策定事業費	1,545 (1,735)	・山形県文化財保存活用大綱の策定(R4.3)	8
「未来に伝える山形の宝」登録制度推進事業費	5,271 (5,477)	・地域の文化財を保存・活用する取組みについて2件新規登録するとともに、既登録団体6団体の取組みについて補助を実施	8
日本遺産魅力発信推進事業費	1,774 (1,900)	・日本遺産「出羽三山『生まれかわりの旅』」及び「山寺と紅花」を活用した取組みの実施及び情報発信	8
山形県総合文化芸術館事業費	23,205 (23,476)	・指定管理者との共同主催により、山形県総合文化芸術館のPRに資する事業を実施(10事業、参加者20,069人)	8
スポーツ振興・地域活性化推進事業費	331,803 (333,362)	・東京オリンピック聖火リレー及びパラリンピック聖火フェスティバルにおける新型コロナ対策の実施 ・ホストタウンにおける新型コロナ対策、県外からのスポーツ合宿への支援	8
プロスポーツ支援事業費	129,096 (129,962)	・県内のプロスポーツチームへの支援(3チーム) ・プロスポーツを活用した地域の賑わいづくり活動への支援等	8
東北・新潟の情報発信拠点事業費(再掲)	20,379 (20,552)	・オリンピック期間中に開催される「東北・新潟の情報発信拠点事業『東北ハウス』」において映像や体験を通じた本県の情報発信及びPRを実施	8
計	698,329 (706,621)		

3 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用【5】

(3) 国内外の活力を呼び込む多様で重層的な交通ネットワークの形成【5-2】



施策の推進方向と主な取組み

⑤ 国際ネットワークの形成促進

外国人旅行者受入数（再掲）					
基準値（平成30年度）：252,289人					
	R2	R3	R4	R5	R6
指標値	—	—※	450,000人	520,000人	600,000人
実績値	125,930人	17,463人 (速報値)			
進捗状況	その他（新型コロナの影響で指標値を設定せず）				

※ 新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る入国制限が行われており、令和3年度の動向について見通すことが困難であったため。

【令和3年度における評価と見直しの方向性】

<三大都市圏や近隣県の国際空港との連携>

（評価）

- ・ 渡航制限により海外との往来再開に至らず、仙台国際空港や関係機関、隣接県からの情報収集にとどまった。（再掲）
- ・ 外国人専用鉄道パスを活用した首都圏（羽田・成田空港）から本県への旅行商品造成のため、官民一体でメディア招請や情報発信を行ってきたが、渡航制限により旅行商品が造成されていない状況にある。（再掲）

（見直しの方向性）

- ・ インバウンドの段階的な回復に向け、隣接県と連携し仙台国際空港や関係機関等から情報収集を行い、タイミングを逃さずにF I T層の山形への誘客を図る。（再掲）
- ・ 海外からの往来再開後を見据え、引き続き、官民一体で安全・安心な旅と新しい山形の過ごし方を提案し、外国人専用鉄道パスを活用した首都圏（羽田・成田空港）から本県への直接的な誘客を図る。（再掲）

<広域的な移動を支える二次交通の充実>

（評価）

- ・ 東北DC開催にあたり、観光周遊バス運行・パス発行、レンタカー支援の二次交通支援や、県内各地域で実施するお客さまのお出迎え（パンフレットやノベルティの配付等）支援等を実施し、受入態勢を整備した。（再掲）

（見直しの方向性）

- ・ 引き続き観光地までの二次交通整備やおもてなしへの支援を実施し、受入環境の向上を図る。（再掲）

<酒田港の機能強化>

（評価）

- ・ 酒田港への外航クルーズ船寄港は新型コロナウイルスの影響により全てキャンセルとなり、外航クルーズ船の運航再開に向けたガイドラインの提示等国の動きはないが、再開に向

け船会社幹部の招請ツアーなど誘致活動を実施した。 (見直しの方向性) ・ 外航クルーズ船の運航再開に向けた国の動向を注視しつつ、近隣県と連携した外航クルーズ船運航に決定権のある幹部を海外から招請する等誘致活動を継続する必要がある。(再掲)

【令和3年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
広域的・長期滞在型観光推進事業費(再掲)	5,040 (5,158)	・近隣県及び交通事業者と連携し、欧米を対象としたメディア(1回)及び旅行会社(2回)招請、オンライン広告を実施 ・近隣県及び交通事業者と連携し、台湾・香港・中国を対象としたメディア招請(1回)、オンライン広告を実施	11
外航クルーズ船誘客事業費(再掲)	1,146 (1,246)	・官民一体となったプロスパーポートセールス協議会を中心に、船社2社の招請など誘致活動を実施	11
東北DC事業費(再掲)	31,243 (39,400)	・山形の魅力あふれる受入企画に加え、東北DC推進協議会、各広域観光協議会、市町村等と連携し、デジタルマーケティングによる宣伝展開、周遊企画の実施、本県の強みや魅力の更なる磨き上げ、ICTの活用による二次交通の利便性向上等の取組みを実施	11
計	37,429 (45,804)		

⑥国内広域交通ネットワークの充実強化

【令和3年度における評価と見直しの方向性】

<広域的な移動を支える二次交通の充実> (評価) ・ 東北DC開催にあたり、観光周遊バス運行・パス発行、レンタカー支援の二次交通支援や、県内各地域で実施するお客さまのお出迎え(パンフレットやノベルティの配付等)支援等を実施し、受入態勢を整備した。(再掲) (見直しの方向性) ・ 引き続き観光地までの二次交通整備やおもてなしへの支援を実施し、受入環境の向上を図る。(再掲)
--

【令和3年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
広域的・長期滞在型観光推進事業費(再掲)	5,040 (5,158)	・近隣県及び交通事業者と連携し、欧米を対象としたメディア(1回)及び旅行会社(2回)招請、オンライン広告を実施 ・近隣県及び交通事業者と連携し、台湾・香港・中国を対象としたメディア招請(1回)、オンライン広告を実施	11

東北DC事業費 (再掲)	31,243 (39,400)	・山形の魅力あふれる受入企画に加え、東北DC推進協議会、各広域観光協議会、市町村等と連携し、デジタルマーケティングによる宣伝展開、周遊企画の実施、本県の強みや魅力の更なる磨き上げ、ICTの活用による二次交通の利便性向上等の取組みを実施	11
計	36,283 (44,558)		

(4) 地域の豊かな自然と地球の環境を守る持続可能な地域づくり【5-3】



施策の推進方向と主な取組み

⑦ 自然環境や文化資産の保全・活用・継承

KPI	地域の伝統・文化行事等に参加している児童生徒の割合					
	基準値（令和元年度）：小6：85.7%、中3：65.9%					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—※	小6：90% 中3：70%	小6：90% 中3：70%	小6：90% 中3：70%
	実績値	—	小6：77.0% 中3：59.8%			
進捗状況	その他（新型コロナの影響で指標値を設定せず）					

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止に係るイベント等の中止や活動自体が制限されるなど、令和3年度の動向を見通すことが困難であったため。

【令和3年度における評価と見直しの方向性】

<文化資産の活用・継承>

(評価)

- ・ 県の具体的な文化財の保存・活用の基本的な方向性を明確にし、県内において各種の取組みを進めていく上での共通の基盤となる「山形県文化財保存活用大綱」を策定（R4.3）した。
- ・ 山形県文化財保存活用大綱策定を受け、「未来に伝える山形の宝」登録制度の見直しを図るとともに、地域の文化財を保存・活用する取組みについて2件の新規登録及び既登録団体への補助を行った。また、コロナ禍において民俗芸能の発表が難しい中、「やまがた伝統文化フェスタ」において「ふるさと芸能のつどい」を開催し、県内4団体に出演発表いただくとともに、団体同士がゆるやかにつながることができるネットワーク構築を支援し、令和3年12月に村山地区民俗芸能団体懇話会が設立された。
- ・ 日本遺産「出羽三山『生まれかわりの旅』」及び「山寺と紅花」を活用し、小学生を対象とした親子伝統文化体験事業を実施した。コロナ禍のため少人数の実施となったが、体験の様子を撮影して楽しく学べる番組仕立ての動画を制作し、動画告知チラシを構成市町の小学校に配付し広く周知した。

(見直しの方向性)

- ・ 文化財の保存と活用の好循環の推進
⇒ 山形県文化財保存活用大綱に基づき、文化財を確実に次世代へ継承するために、保存と

<p>活用の好循環につながる取組みを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化・民俗芸能の継承 <p>⇒ 引き続き地域の文化財を保存・活用する取組みを掘り起こし、「未来に伝える山形の宝」登録制度への新規登録を推進し、支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本遺産の活用 <p>⇒ 引き続き日本遺産を活用し、観光振興、地域活性化を図るとともに、人材育成、普及啓発の取組みを通して文化資産の保存・継承に繋げていく。</p>
--

【令和3年度関連事務事業】

(単位:千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
文化財保存活用 大綱策定事業費 (再掲)	1,545 (1,735)	・山形県文化財保存活用大綱の策定(R4.3)	4
「未来に伝える 山形の宝」登録 制度推進事業費 (再掲)	5,271 (5,477)	・地域の文化財を保存・活用する取組みについて 2件新規登録するとともに、既登録団体6団 体の取組みについて補助を実施	4
日本遺産魅力発 信推進事業費 (再掲)	1,774 (1,900)	・日本遺産「出羽三山『生まれかわりの旅』」及 び「山寺と紅花」を活用した取組みの実施及び 情報発信	4
文化財保護事業 費(再掲)	48,598 (51,561)	・国指定文化財の保存修理(国宝羽黒山五重塔防 災施設整備事業など19件)等への支援の実施	4
料亭文化及びや まがた舞子・酒 田舞娘文化の維 持継承等への支 援(9月補正)	32,999 (57,142)	・料亭等での食事やテイクアウトの際に利用で きる割引クーポンの発行や料亭のポストコロ ナに向けた取組みへの支援(補助実績:20件) などを実施	4
計	90,187 (117,815)		

(5) 地域の特性を活かし暮らしを支える活力ある圏域の形成【5-4】



施策の推進方向と主な取組み

⑧県を越えた交流連携の推進

【令和3年度における評価と見直しの方向性】

<p><多様な分野における近隣県等との交流連携の推進> (評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡航制限により海外との往来再開に至らず、仙台国際空港や関係機関、隣接県からの情報 収集にとどまった。(再掲) <p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インバウンドの段階的な回復に向け、隣接県と連携し仙台国際空港や関係機関等から情報 収集を行い、タイミングを逃さずにF I T層の山形への誘客を図る必要がある。(再掲)
--

<目的指向型の国際交流・連携の推進>

(評価)

- ・ 1年延期となっていた東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催され、ホストタウン相手国・地域との交流は、感染状況から約半数が中止となったものの、感染対策を講じながらの事前合宿の受入やオンライン交流など、ホストタウン自治体においてコロナ禍での工夫を凝らした交流が実施された。(再掲)
- ・ 新型コロナによる渡航制限により、当初予定されていたスポーツ大会が延期となった。また、合宿の支援についてはコロナ前の状況には戻っていないが徐々に戻りつつある。

(見直しの方向性)

- ・ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックは終了したが、工夫を凝らした交流事例を紹介しながらスポーツを通じた国際交流が広がるよう支援していく。(再掲)
- ・ 新型コロナウイルス感染症の収束を見据えながら支援していく。

【令和3年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
広域連携推進事業費(再掲)	20,436 (20,590)	・ 東北観光推進機構等と連携した海外誘客事業の実施	11
広域的・長期滞在型観光推進事業費(再掲)	5,040 (5,158)	・ 近隣県及び交通事業者と連携し、欧米を対象としたメディア(1回)及び旅行会社(2回)招請、オンライン広告を実施 ・ 近隣県及び交通事業者と連携し、台湾・香港・中国を対象としたメディア招請(1回)、オンライン広告を実施	11
スポーツ振興・地域活性化推進事業費(再掲)	331,803 (333,362)	・ 東京オリンピック聖火リレー及びパラリンピック聖火フェスティバルにおけるコロナ対策の実施 ・ ホストタウンにおけるコロナ対策、県外からのスポーツ合宿への支援	11
計	357,279 (359,110)		